倉敷商14年ぶりV

春の中国高校野球

春の中国高校野球大会最終日は3日、倉敷市のマスカットスタジアムで決勝があり、倉敷商が創志学園との岡山勢対決を5－1で制し、14年ぶり3度目の春の中国王者となった。

倉敷商は一回に田辺大の犠飛で先制。七、八回にも加点し、5－0とした。投げては先発の1年生左腕中村、2年生右腕角田のリレーで反撃を最少失点でしのいだ。創志学園は好機にあと一本が出ず、2年萩野ら5投手の継投も実らなかった。

下級生投手の好リレーで戴冠

「17－1」の大勝から1カ月。春の県大会に続く頂上決戦でも勝ちどきを上げたのは倉敷商だった。「辛抱強い守備が勝因」と梶山監督が話すように、下級生の投手リレーを軸に創志学園の攻撃を耐え抜いた。

大役に抜てきされたのは公式戦初先発の1年生中村。「落ち着いていこうと何度も心の中で念じた」という左腕は、毎回得点圏に走者を背負うも、緩急巧みに打たせて取り決定打を許さない。小雨が降る中、4回無失点と懸命に腕を振る姿が先輩たちに火を付けた。

「自分もやってやると気合が入った」と2番手の2年角田。直曲球をコースに投げ分け5回を最少失点でしのぐ。バックももり立て、三回、同点のピンチでは一塁の3年和田が鋭い打球を横っ跳びで好捕した。

試合後の整列に向かうナインに浮かれた様子はなかった。「優勝は自信になるが、地に足をつけて夏に臨みたい」と主将の佐藤拳。中国王者は4年ぶりの聖地へ歩みを止めない。（矢吹喜一朗）

▽決勝

創志学園	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
倉敷商	1	0	0	0	0	0	1	3	×	5

▽三塁打　吉森▽二塁打　衛藤▽暴投　半田

【評】倉敷商は終盤に畳みかけた。1－0の七回は吉森の三塁打と佐々岡の適時打で追加点。八回は佐藤直の2点打など4単打を集めて計3点を奪い、大勢を決めた。中村－角田の継投も機能した。

創志学園は相手を上回る10安打を放ったものの、九回に代打衛藤の適時打で挙げた1点にとどまった。（矢吹喜一朗）

創志三たび屈す

三度目の正直はならなかった。創志学園は攻守に振るわず、昨秋、今春の県大会で敗れた宿敵・倉敷商に三たび屈した。

先発の2年萩野が一回、先頭を四球で歩かせるなどし1死一、三塁のピンチを招き、犠飛で先制を許した。これまでの2試合でも初回に失点しており、主将の朝野は「悪いイメージを払拭できなかった」と悔やむ。

打線は九回2死から「絶対に諦めない気持ちで振り切った」という代打衛藤の適時打など3連打で1点を返すのが精いっぱい。2桁安打を放つも再三のチャンスを生かし切れなかった。残り1カ月余りとなった夏の岡山大会に向け、苦い敗戦は糧となるか。（渡辺誠）

4回無失点と粘投した倉敷商の先発中村＝倉敷マスカット（紀圭太撮影）

創志学園	打	安	点
⑤ 清水	5	1	0
④ 栢菅	3	1	0
③ 13			
半田	4	0	0
⑧ 大谷	3	0	0
重近	3	1	0
⑦ 白川	1	0	0
⑦ 桑田	4	2	0
② 朝野	4	2	0
⑨ 塩浦	3	2	0
⑥ 萩野	1	0	0
① 池田	1	0	0
H 坂下	0	0	0
H 鎌田	1	0	0
1 伊藤	0	0	0
1 31			
明星	0	0	0
H 衛藤	1	1	1
計	34	10	1

倉敷商	打	安	点
⑧ 吉森	3	2	1
⑨ 田中	4	0	0
⑥ 佐々岡	3	2	1
⑦ 田辺大	3	0	1
③ 平川	0	0	0
③ 和田	4	3	0
R 今岡	0	0	0
7 田辺希	0	0	0
② 妹尾	4	1	0
④ 佐藤拳	3	0	0
⑤ 佐藤直	4	1	2
① 中村	0	0	0
H 菰口	1	0	0
1 角田	1	0	0
計	30	9	5

	創	倉
打	4	4
安	1	4
塁打	2	4
盗塁	1	1
失	1	1
残塁	9	9
併	0	0

©山陽新聞社　無断複製転載を禁じます。